

環境への負荷が少ない商品・サービスの優先的購入を進める地域ネットワーク

GPN Green Purchasing Network

CONTENTS

- 石川 英輔 氏に 聞く <講演>「大江戸リサイクル事情」
2004年度通常総会の開催報告 1
- REPORT1~4 3
設立5周年を迎えました
- 「びわ湖環境ビジネスメッセ2004」出展報告 4

- エコ情報室「分ければ資源!古紙1トンは立木20本」 6
●シリーズ「がんばる滋賀県!」
- エコに学べ! 7
『まちのエコロジーステーション』の新たな挑戦／油藤商事(株)
- リレートーク 8
「グリーン購入を取引先・顧客に発信!」／(株)びわこ銀行

作家 石川 英輔 氏に 聞く

講演「大江戸リサイクル事情」(2004年度通常総会における講演会より)

■自然に反する「一通文明」

現代の便利で快適な生活の裏には、いろいろな落とし穴があり様々な問題が起こっています。その原因をひとつに絞ると、「エネルギーの使い過ぎ」なんです。

今の日本人は毎日、1人当たりだいたい12~13万キロカロリーのエネルギーを使っているのですが、そのうち10万キロカロリーが化石燃料によるものです。0°Cの水1トン（家庭用の浴槽5杯分）を加熱して沸騰させるのに必要な熱量が、ちょうど10万キロカロリー。相当な量ですよね。

化石燃料は一度燃やせば元に戻りません。できた二酸化炭素が来年の春、元の燃料に戻るようなことはあり得ない。大気中の二酸化炭素は増え続けるだけで、つまり自然の循環に反したことをやっている。これを私は「一通文明」と呼んでいます。一方通行の道路のようだということです。

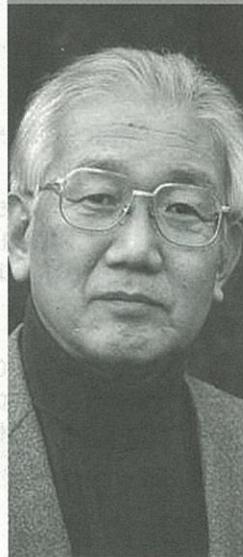
■循環型だった江戸時代

江戸時代までの日本の文化は、完全に循環する「ターンテーブル文化」でした。いらなくなつたものは、燃やしても捨てても、だいたい1年で元に戻るようになっていました。

と言うのも、少し前まで日本で作られる「もの」は、ほとんどが植物製品だったからです。植物は、燃やしても捨てても元に戻ります。そして、元に戻すのに必要な

石川 英輔氏
(いしかわ えいすけ)

PROFILE



1933年京都府生まれ。国際基督教大学と東京都立大学理学部中退。1961年ミカ製版(株)創業。1985年より専業作家となる。最近は、科学技術的な立場から見た江戸時代の資源、エネルギー、環境問題についての著作が多い。代表的な著書は『大江戸神仙伝』『大江戸えねるぎー事情』『大江戸リサイクル事情』などの大江戸シリーズ(講談社)。最近刊は『大江戸番付事情』(講談社文庫)。NHKのコメディー番組「道中でござる」(毎週木曜夜8時放映)に、江戸の暮らしや文化を紹介する解説者として出演中。

エネルギーは、ほとんど100%太陽エネルギーだったのです。

このしくみがわかりやすいのは「稲作」です。江戸時代、採れた米は備蓄分と種粒分を残して食べてしまうわ

→ 次ページに続く

作家 石川 英輔 氏に聞く

講演「大江戸リサイクル事情」(2004年度通常総会における講演会より)

けですが、食べた後「出たもの」を現代の私たちは水で流してしまっています。しかし、それは江戸時代と言わず私が高校生くらいまでは、東京の中野でも農家の人がお礼まで持って取りに来てくれる(笑)、「下肥(しもごえ)」と呼ばれる貴重な肥料でした。江戸時代には、下肥の問屋や小売商もあり、商品として売買されていたのです。こうして昔は資源として利用していたものを、今では大量のエネルギーを使って処分しています。

お米の副産物である「わら」の50%が堆肥として使われたようです。30%が燃料として燃やされ、灰になっていました。この灰というのも貴重なもので、農業用には「カリ肥料」として、藍染屋さんでは布を染めるのに必要だったようです。灰を買い集めて売る「灰買い」が、りっぱな商売として成り立ちました。残りの20%が「わら製品」になっていました。当時、履物のほとんどが「わら製品」でしたが、すぐに磨耗し痛むのでどんどん履き替えられ、燃料や肥料になっていました。

■使い過ぎエネルギーは削減できる

私自身は現代の便利な社会が好きです。しかし子どもや孫の世代を考えると、とにかく今のままではいけない。そのために「エネルギーを削減しなければいけない」と

言うと、皆さん、何だかすごく惨めな生活をしいられるよう想像して、億劫に感じてしまわれるようです。

しかし、今のエネルギーの半分と言うと、約5万キロカロリーです。一人1日あたりのエネルギーがそれくらいだったのは、1970年大阪万博が開催された頃です。さて、あの頃の私たちは悲惨な生活をしていましたか?既に新幹線も走っていたあの時代、もし悲惨な時代であつたら大阪万博なんてやれるはずがありません。

現代の私たちの生活は、無駄なエネルギーを使い過ぎているのです。たとえば車。私の乗っている車は1110キログラムあるのですが、体重68キロの私が、わざわざ1110キロもある乗り物を一人で動かして移動しているわけです。エレベーター、自動ドア、バリアフリー。こんなに贅沢になった私たちの体は、そのうち自分では水道の蛇口もひねれないようになってしまふのではないか?

ですから、グリーン購入も、もっと基準を厳しくしても良いと思います。トイレットペーパーは白くないといやだと言えば、どんどん白くなる。でも、元から白くないのしかなければ、「白くないとダメだ」なんて意見は出てこないのである。

Topics&News

2004年度通常総会の開催 第3期役員が決定いたしました。

- 開催日：2004年5月18日(火)
- 場 所：滋賀県農業教育情報センター(大津市)
- 内 容：議事と講演会(詳細はホームページをご覧ください。)
- 参加者：123名

<第3期役員(2004年5月18日～2006年5月31日)>

代表幹事／滋賀県立大学 環境科学部 学部長・教授 土屋正春

常任幹事／関西日本電気(株) (株)滋賀銀行 滋賀県環境生活協同組合

幹 事／[アドバイザー] 同志社大学 経済学部 教授 郡島 孝

[企 業] 関西電力(株)滋賀支店 キリンビール(株)滋賀工場 小林事務機(株)

昭和電工(株)彦根事業所 新江州(株) ダイキン工業(株)滋賀製作所

たねやグループ 東陶機器(株)滋賀工場 長浜キヤノン(株)

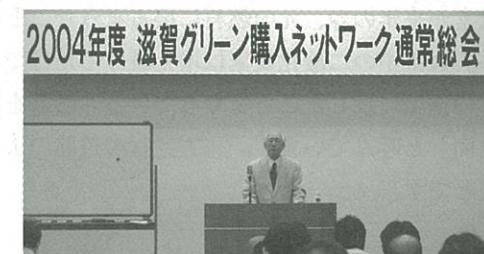
[消費者団体等] 琵琶湖ナショナルファミリー会 (株)琵琶湖ホテル (株)平和堂

(社)滋賀県建設業協会 滋賀県商工会連合会 滋賀県地域婦人団体連合会

滋賀県立大学グリーンコンシューマーサークル 生活協同組合コープしが

[行 政] 滋賀県 大津市 彦根市 野洲市 東近江市

会計監査／(株)びわこ銀行 高島市



Report 1 「グリーン購入セミナー」開催

- 開催日：2004年7月15日(木)
- 場 所：東陶機器株式会社 滋賀工場(湖南市)
- 内 容：・東陶機器株式会社 滋賀工場 見学・説明会
・グリーン購入基礎セミナー
- 参加者：41名



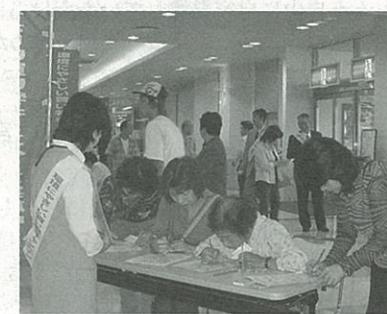
Report 2 事業所見学会(評価手法研究会)の開催

- 開催日：2004年9月10日(金)
- 場 所：新江州株式会社(びわ町)
株式会社リコー福井事業所(福井県坂井郡坂井町)
- 内 容：「容器・包装」のあり方から資源循環を考える見学会
- 参加者：35名



Report 3 「グリーン購入キャンペーン」実施

- 期 間：2004年10月1～31日
- 内 容：
- 1) 会員による取り組み
共通目標を設定して会員に対して取り組み強化を呼びかけ、「グリーン購入キャンペーン実施報告書」の提出を依頼。
- 2) 一般消費者への啓発
・協力小売店によるポスター、ポップの掲示(県内148店舗)
・協力小売店頭でのアンケート調査実施(県内37店舗)
来店者に対し買い物袋の持参と環境にやさしい買い物を呼びかけながら、啓発品を配布し、アンケート調査を実施。
(滋賀県実施の「環境にやさしい買い物キャンペーン」と連携)
啓発参加者 延べ411人 アンケート回答者 4,132人



Report 4 「環境にやさしい買い物フォーラム」の開催

- 開催日：2004年11月26日(金)
- 場 所：ひこね市文化プラザ(彦根市)
- 内 容：講演「環境に配慮した商品選択のすすめ」
講師：消費生活アドバイザー・滋賀ネットワーク代表 西尾久美子氏
- 参加者：22名

設立5周年を迎えました

2004年12月16日

1999年12月16日にピアザ淡海(大津市)で設立総会が開かれ、滋賀GPNが発足しました。設立当初の会員数は242団体。5周年を迎える会員数は391団体を数えるまでに成長しました。

5周年を迎えるにあたり、会員有志で構成される実行委員会の企画により「記念誌の発行」「会員情報サイトの開設」「記念フォーラムの開催」という3つの記念事業を実施。このうち「記念誌」は、11月19日に開催した「記念フォーラム」(別紙参照)の開催に併せて発刊。滋賀GPNの歴史や活動情報・会員からのメッセージなどを掲載しました。

また、ホームページ上で会員の事業内容をPRすることによりグリーンなマーケットを拡大していくことを目的とする「会員情報サイト」も、この2月にオープンいたしました。グリーン購入に取り組む上で、まず、グリーンな取引先を見つける。そんな時、このサイトをご利用ください! 滋賀GPN会員の取扱商品や活動状況がご覧になります。



「会員情報サイト」滋賀GPNホームページよりご利用いただけます。<http://www.shigagpn.gr.jp/>

「びわ湖環境ビジネスメッセ2004」出展報告

期間／2004年10月20～22日 場所／滋賀県立長浜ドーム（長浜市）

1日めの台風来襲も何のその、3日間で昨年並みの36,278人が来場したビジネスメッセ。滋賀GPNは今年も「産官学連携ゾーン」に出演。会員団体の協力出展による環境配慮型商品の展示と、グリーン購入基本原則をモチーフにしたクイズラリーで、来場者にグリーン購入運動への参加を呼びかけました。

協力出展ならびにスタッフの皆さんから参加の感想を伺いました。

協力出展



（株）シガ建設
専務取締役 奥村 陽一さん

太陽光発電システムを出展させていただきました。このシステムは化石燃料の使用や大気汚染を極限まで低減でき、一般家庭の方々も自由に自家発電していただける商品です。環境保全を推進していく上でも、今後も普及に努めたいと思っております。



（株）テムス
マネージャー 宮田 玲奈さん

業界初、省電力の「LED光源誘導灯」を皆様に実際に目にしていただく貴重な機会をいただき、大変感謝しております。常時点灯が義務付けられている製品だからこそ環境への影響は大きいと感じます。滋賀を代表する製品へと、今後もコストパフォーマンスを意識しながら環境にやさしい製品開発に努めていきたいと考えております。



宮川印刷（株）
取締役営業部部長 長谷川 茂さん

送った封筒がそのまま戻る、返信用封筒の要らない「往復封筒」を出展させていただきました。環境にやさしい郵便・宅配アイテムです。メッセ終了後、名古屋からも説明に来て欲しいとの依頼があり、展示の機会を与えてくださった皆様にお礼を申し上げます。



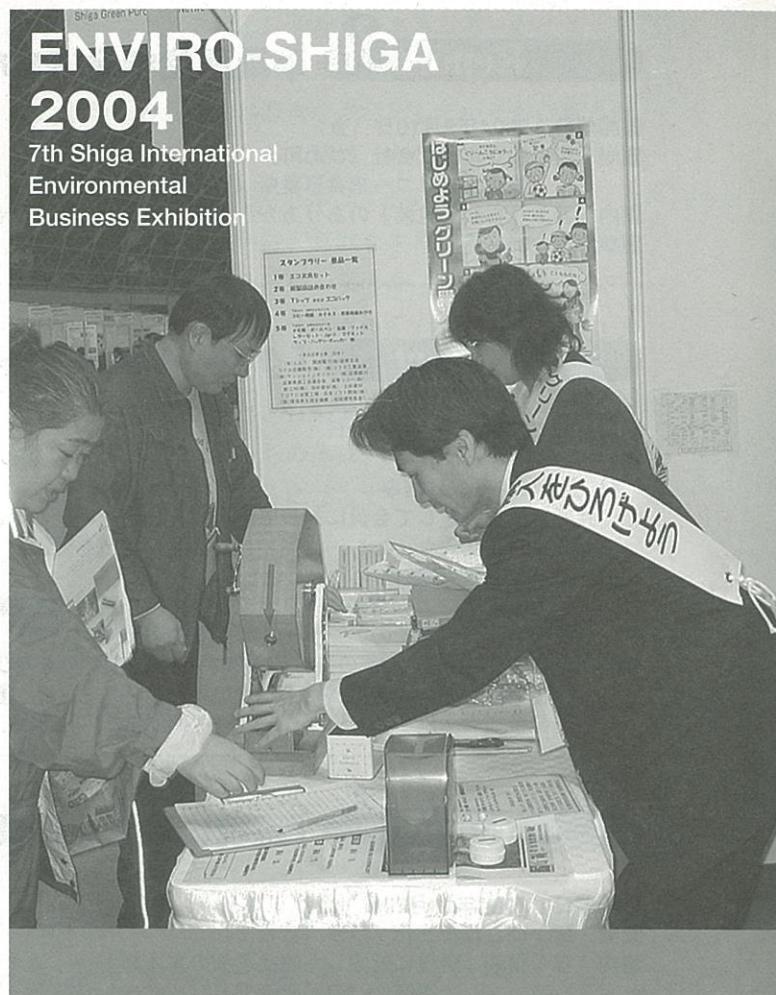
田中建材（株）
専務取締役 田中 稔さん

初日台風という猛烈なスタートでしたが、グリーン購入のスタンプラリーで偶然ブースに来てくださった会社の近所のおばちゃん達に取り組みを説明させていただいたり、環境に拘った商品を専門の方に説明させていただいたり、頭と足腰を鍛えながら商談ができる充実したメッセでした。



（株）ディエスジヤパン滋賀店
店長 竹中 正樹さん

リサイクルトナーカートリッジを出展させて頂きました。カートリッジご利用後も安心して頂ける、回収・リサイクルシステムを地域の皆様に提案させて頂いております。環境についての先進県である滋賀において、今後も様々なサービスに取り組んで行きます。



「クイズラリーのご案内」や「スタンプラリーの受付」など、滋賀GPNブースのスタッフを会員団体の有志の皆様にお願いしました。

<スタッフ協力団体>

旭化成住工、NEC関西、エルフ、関西電力滋賀支店、キリンビール、木村電工、K.E.C、コクヨ近畿販売、コクヨ工業滋賀、彩生舎、滋賀銀行、滋賀県商工会連合会、滋賀リコー、シガ建設、清水商会、昭和電工、新江州、田中建材、たねや、土田建材、ティーエムエルデ、TOTO滋賀工場、日本ソフト開発、平和堂、滋賀県、彦根市、木之本町、県立大グリコン、滋賀県建設業協会、淡海環境保全財団

ご協力いただいた皆様、ありがとうございました！

会員ブース連携「スタンプラリー」を実施しました

今年のメッセはひと味違う！滋賀GPNが「メッセの新しい楽しみ方」をご提案！

今回初の試みとして、呼びかけに応じてくださった会員15団体のご協力により、会員ブース連携によるスタンプラリーを実施。各ブースにて、グリーン購入実践事例や環境配慮型商品及びサービスをご紹介いただき、約650人のラリー参加者にガラポン抽選を楽しんでいただきました。

<スタンプラリー参加団体>

エルフ・滋賀県環境生活協同組合、関西電力滋賀支店、木村電工、コクヨ近畿販売、コクヨ工業滋賀、彩生舎、滋賀銀行、滋賀県商工会連合会、滋賀リコー、清水商会、新江州、田中建材、土田建材、TOTO滋賀工場、日本ソフト開発

スタッフとして参加

東陶機器（株）滋賀工場
衛陶計画課 中江 由美子さん

今回初めてイベントに参加させて頂いて、多くの方々と接する機会を持てたことが大変嬉しく、良い経験をさせて頂きました。滋賀GPNについては、個人的には「耳にした事がある」程度だったのですが、実際の活動内容などを今回知る事ができ、グリーン購入を再認識するとともに買い物や会員企業に対する意識も変わりました。



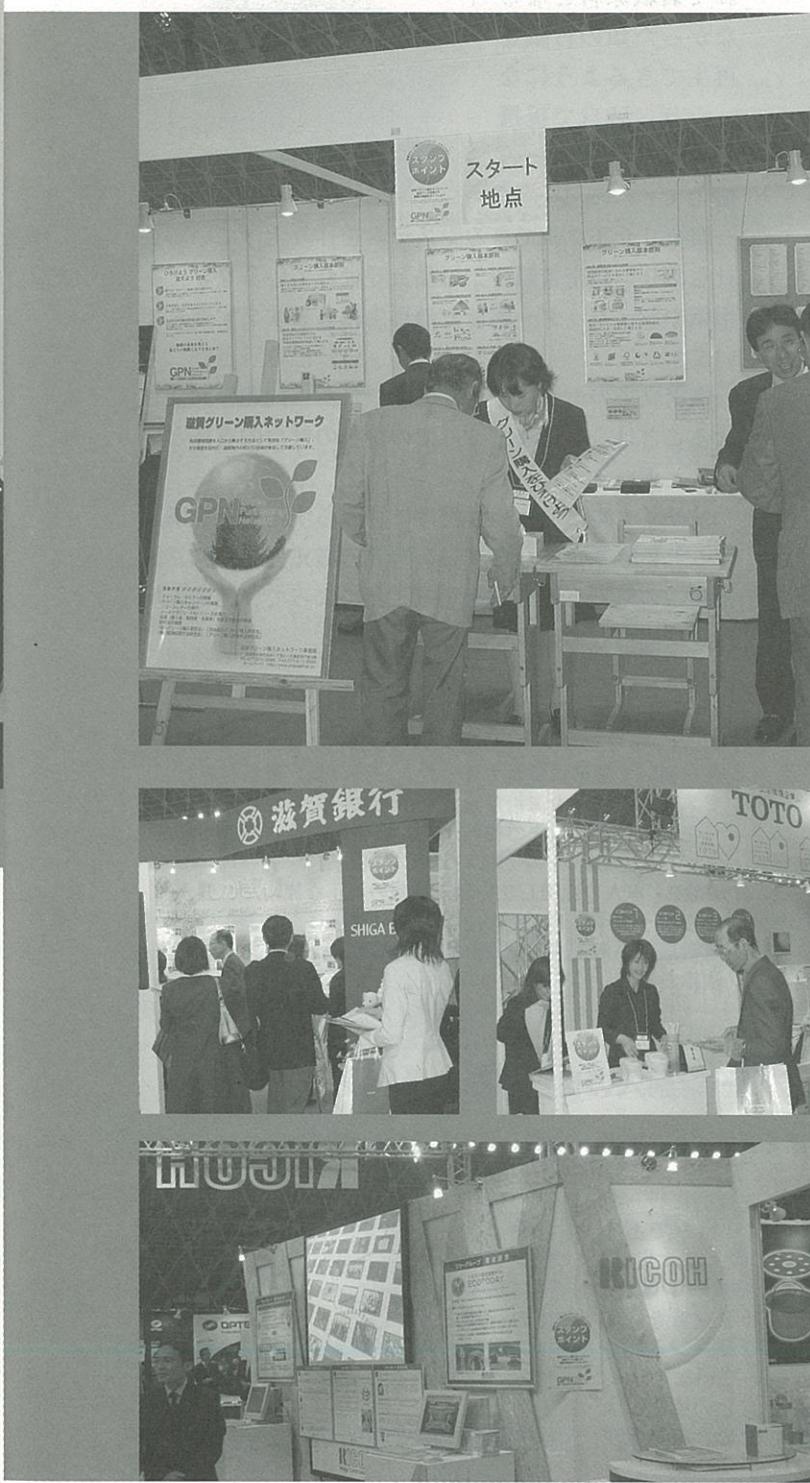
ティーエムエルデ（株）
伊藤 博子さん

私がお手伝いに入った初日は台風の影響で朝から風が強く、大丈夫かなあと不安になったのを覚えています。スタンプラリーの受付・案内をしましたが、天候のせいもあってか「時間がない」と断られる事が多かった中、喜んで参加される方や、全部回って帰って来られた方に会えた時の喜びはひとしおでした。



彦根市 生活環境課
山本 佳子さん

今年度のビジネスメッセでは、初の試みだったスタンプラリーが非常に好評で、昨年以上にいろんな年代の方にブースを訪ねていただくことができました。企業の方だけでなく、長浜ドームの近くにお住まいの方や高校生も来られて、グリーン購入へ関心を持っていただけたと思います。グリーン購入がますます広がっていくようにこれからも活動していきたいと思います。



エコ情報室

滋賀グリーン購入ネットワーク 機密書類処理方法研究会 中川武司

分ければ資源！古紙1トンは立木20本

■あまりにも身近な存在ですが…

「紙」の歴史を振り返れば、今の原型ができたのが約5500年前で、紙の語源ともなっているパピルス（※注1参照）だと言われています。以来、紙の消費量は文化のパロメーターとも表現され、日本は最近、中国に世界第2位の座を譲ったそうですが、依然として世界の中でもトップクラスの使用量であることには変わりがありません。

さて、この紙が企業オフィスにおいて使用される時には、必然的に社外に漏れると問題となるような機密性の高い書類や、漏れると個人のプライバシーの問題となるような書類が多くなっています。 「パピルス（原産国・アフリカ）」



す。

最近では製紙メーカーの抄造技術が向上して、今まで「禁忌品」と称されて製紙原料とならなかった類の古紙を再生できるようになったり、独自で提携した製紙メーカーの協力で、シュレッダー屑をリサイクルできるシステムを作り上げている会社もあり、機密書類や禁忌品と呼ばれているフォーム用紙やシュレッダー屑などの再生化もますます進んでいます。

機密文書のセキュリティとエコロジー問題を両立させることは、身近なところでの企業の社会的責任といえると思います。

リサイクルに取り組むだけに終わらず再生品を購入するという基本的なグリーン購入の考え方を基に、機密書類の処理方法を研究することによって、地球環境保護に協力していきたいものです。



■個人情報保護法の施行。機密情報を漏らさず、環境保護を

個人情報保護法（※注2参照）が平成17年4月から施行され、ますます企業内の書類の機密性が問われるようになります。不要になった書類の機密を保持するために、シュレッダーの利用や焼却処分をすると予想されますが、これは資源保護や環境保護と相反する結果となります。また、焼却処理は二酸化炭素発生やダイオキシン発生の遠因になるとも思われます。

「古紙は都会の森林」と表現されている製紙メーカーがあるように、古紙1tは立木20本に相当するそうで

※注1／カヤツリグサ科の植物パピルス（カミガヤツリ）の茎を裂いて縦横に重ねて作った、一種の紙。筆写材料としてエジプトや地中海沿岸地方を中心に、紀元前3100年頃から紀元後10世紀頃まで使われた。紙を意味する英語 paper フランス語 papier などはパピルスに由来。

※注2／本人の意図しない個人情報の不正な漏洩や、個人情報を扱う事業者がさまざまなデータ管理をしないように、一定数以上の個人情報を扱う事業者を対象に義務を課す法律のこと。2005年4月より全面施行される。

がんばる滋賀県！ Ganbaru Shigaken 「グリーン購入の自己診断結果」提出を義務づけ

滋賀県出納局では毎年、物品等に係る指名競争入札参加資格審査を実施していますが、この受付に際して今年度から新たに、滋賀GPNで構築された「グリーン購入自己診断システム」の診断結果の提出を義務づけました。

現在、滋賀県の物品等に関する指名競争入札業者の登録数は2335社にのぼりますが、有効期間が2年間であることから、今年度約半数の事業者がインターネット上で公開されている自己

診断システムの診断を実施され、診断結果を提出されました。

滋賀県においては、先進的に行ってきたグリーン購入の取り組みである「環境にやさしい物品の購入基本指針」「推奨リスト」から一歩進めて、現在、環境負荷の低減に努める事業者を評価する手法を取り入れるグリーン入札を進めいくことを検討しています。

このように滋賀GPNとの協働による取り組みを進めることで、事業者が

グリーン購入の取り組みの現状を把握し、活動レベルの再認識や今後の目標として生かす機会が増え、さらなる取り組みにつながることを期待しています。

（滋賀県出納局 管理課 エコオフィス担当）



エコに学べ！ ● 油藤商事(株) 専務取締役 青山 裕史さん

『まちのエコロジーステーション』の新たな挑戦

■パラダイムとは？

パラダイムとは、ある一時代の人々の支配的な物の見方、考え方、認識の根本的な枠組みのことを言います。それは、思考や行為の基準、規範となる世界観とも言えるもので時代とともに変化していくものです。

経済の右肩上がりを前提とする日本の20世紀型パラダイムは、成長から成熟へ、供給者の論理から顧客志向へ、中央集権から地方分権へなど変革を余儀なくされてきています。このようなパラダイムシフトを見据えたとき、今までの価値観のままでは、当然行き届かなくなり、またコスト削減やその業界での進むべき方向性への革新だけでは、パラダイムシフトすることが難しい状況になってきていると思います。

■ガソリンスタンドをパラダイムシフト

昭和初期 モータリゼーションの流れに乗り、自動車燃料の石油製品の販売が躍進しました。そして時代が変革し、ガソリンスタンド（以下G S）業者同士の競争が激化し、平成に入りG S業界は未曾有の淘汰の時代に突入してきました。そしてセルフ化の流れや多様化の流れを受け現在に至っています。変革が求め

られる中「かわらなきゃ！」と思い、試行錯誤を繰り返しています。しかし、今まででは本当のパラダイムシフトにならないと感じています。

そこで、G Sの持つ本来のポテンシャルを再認識してみると、そこには地域の資源ゴミ回収ステーションとしてのエコロジーステーション構想や、災害時の緊急対応拠点としての活用や、非常時の一次かけこみ窓口としての活用、不登校・ひきこもりなどの社会復帰の場（就職先）としての活用など、どれをとってもそのポテンシャルを活かせるのではないかと考えております。

■エコステーションの新しい挑戦

現在 当社では、廃食油リサイクル燃料のバイオディーゼルの販売をしております。それは、G S店頭や灯油配達時に回収した家庭からの廃食油（廃てんぶら油）を、メチルエスチル化し、軽油の代替燃料として、ディーゼル車に給油するという地産地消の地域循環モデルです。

このバイオディーゼル燃料の新しい活用方法として、ランプの灯火として活用するプロジェクトを提案しております。



家庭やレストランの厨房で出た廃食油をリサイクルし、料理が出されるテーブルのランプで灯し、さらに料理を引き立てるようなアイテムとしていただくことをご提案します。家庭内・レストラン内ゼロエミッションともいうべき取組みです。

■企業の社会的責任（CSR）

近年、企業の「社会的責任」に対する関心が非常に高まっています。もちろん、日本企業はこれまでにも社会に対する様々な貢献を通じて社会的責任を果たしてきました。しかし、CSRの定義や範囲は時代とともに移り変わるものです。

価値観や企業の価値創造をパラダイムシフトすることができれば、グリーン購入やエコロジーへの取組みもまだ前進するよう



に思います。まずは出来ることからはじめたいです。

「かわらなきゃ
も かわらなきゃ！」

▲BDF燃料を利用した
信楽焼ランプ

新規入会会員

2004年1月1日～12月31日

お問い合わせ／油藤商事株式会社
〒529-1173 滋賀県犬上郡豊郷町高野瀬645
TEL.0749-35-2081 FAX.0749-35-2083
URL <http://www.aburatou.co.jp>
MAIL h-aoyama@mtc.biglobe.ne.jp

エムシースクエア(株)、(株)サニー商事、(株)ふうしん、(株)中島貨物店、草津板金(株)、(株)清水合金製作所、伊藤忠テクノサイエンス(株)、(財)経済調査会、全国農業協同組合連合会 滋賀県本部、(株)ダルトン西日本支社、(財)滋賀県環境事業公社、(株)天童木工、(株)滋賀富士通ソフトウェア、(有)鳴村商店、イワタニガスネットワーク(株)滋賀営業所、(株)近畿選挙センター、(株)スマ印刷工業、(社)滋賀県建設業協会、滋賀県地域婦人団体連合会、(株)田辺消防システム、大津紙業写真印刷(株) 大和電設工業(株)滋賀支店、滋賀大和電設工業(株)、ミドリ安全滋賀(株)、マルセイ建設(株)、谷口印刷(株)、(社)滋賀県薬剤師会 試験センター、滋賀貨物運輸(株)、(有)山田東店、(株)山本園、(有)村中商会、太田印刷所、(有)画箇堂、(株)高速オフセット 滋賀営業所、(株)オフィスキャリア、(有)研美社、八十島プロシード(株)、琵琶湖汽船(株)、(株)コイド

現会員数：391 (2004年12月31日現在) (企業309、行政49、非営利団体33)

リレートーク Relay Talk

グリーン購入を取引先・顧客に発信！

びわこ銀行では、《美しい自然を未来に残したい》をテーマに自然環境の保全と改善に努め、「環境こだわり銀行」として地域社会との共生を目指しています。例えば、1975年に栗東市で全国植樹祭が開催されたのを記念して、以来苗木の寄贈を継続しているのはその一例です。その数はこれまで約11万本にのぼります。

また、2001年1月に全国の第二地銀で最初にISO14001の認証を取得。環境関連商品の充実・推進などを通じてお客様の「環境関連事業」や「環境保全に向けた対応」などをサポートすべく取り組んでおり、事業者のお客さまには「環境サポートローン」「ISOサポートローン」、個人のお客さまには「エコライフ定期

預金」「エコライフプラン(住宅ローン、オートローン)」をご用意、本業を通して環境に貢献しています。

「グリーン購入」については、環境推進委員会にグリーン購入分科会を設けて推進を図っています。現在、紙類、印刷物類(伝票、パンフレットなど)、文具類、自動車、頒布品等8項目にわたり「グリーン購入」「特定調達品目」および判断基準を作成し、各部門あげてグリーン購入化を進めています。銀行業務の中

でも、伝票類やお札を巻く封紙をはじめとして、紙幣袋、通帳ケース、お客様への頒布品などを環境に配慮した商品に切り替えてます(頒布品は100%環境配慮商品〔03年度〕)。

その他、3R活動の一環として、銀



(株)びわこ銀行
環境推進室長
中山 和郎さん



行から発生するシュレッダーごみをトイレットペーパーにリサイクルしています。リサイクルされた製品を銀行で使用するとともに、02年より県立障害児学校に毎年1万ロールを寄贈しており、環境の側面からも地域貢献ができればと願っています。

このような活動が評価され、当行は04年度「第7回 グリーン購入大賞(優秀賞)」を受賞するという栄誉を受けました。今後も、滋賀GPN会員の情報ネットワーク化が一層図られグリーン購入の輪が広がるように、微力ながらお役に立てればと思っています。

次回は、湯元館さんにお願いします。



会員発工コ商品情報



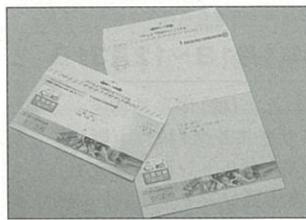
消せるトナー「e-b l u e」対応MFP(複合機)

(株)宮川商店

消せるトナー「e-b l u e」を搭載したMFP(複合機)です。一度プリントした紙も、インクが消えれば新たに使えるはず。そんな発想から生れた消せるトナー「e-b l u e」でプリントすることで、5回程度の紙のリユース(再利用)が可能になります。〔e-b l u e〕の導入で、紙使用

量を約60%節約(導入部門実績)ISO14000の取得に伴って、裏紙の使用や両面印刷などで用紙使用量を削減する試みが増えていますが、いまひとつ削減効果を実感できない方に大きく寄与する商品です。

<お問い合わせ>(株)宮川商店 長浜市宮前町12-6
TEL:0749-62-0490 FAX:0749-63-8597
E-mail:info@mgsoten.co.jp



返信用封筒不要で省資源を実現した『往復封筒』

宮川印刷(株)

送った封筒がそのまま戻る、返信用封筒のいらない『往復封筒』は、1枚の封筒で送信も返信もできる循環型封筒です。今までになかった新発想のエコロジカルな郵便・宅配アイテムですので、省資源化による環境対応とコストダウンが期待できます。行き(往信)も帰り(返信)も定形郵便で使

用できる“エコスタンダード”、行き(往信)はメール便or郵便、帰り(返信)は定型郵便で使用できる“エコスツイン”的2種類があります。ぜひ、エコアイテム『往復封筒』の導入で消耗品である封筒の省資源化を実現してください。

編集・発行/滋賀グリーン購入ネットワーク事務局

〒520-0807

滋賀県大津市松本一丁目2番1号 大津合同庁舎6階

財団法人 淡海環境保全財団内

TEL.077-510-3585 FAX.077-510-3586

E-mail:sgpn@oregano.ocn.ne.jp URL:<http://www.shigagpn.gr.jp/>

デザイン/うーび企画 印刷/アイヌ株式会社
このニュースレターは、GPN-GL14「オフセット印刷サービス」発注ガイドラインに基づき作成しています。
用紙:古紙配合率100%、白色度70%「OKブリント上質エコG100」
(王子製紙) インキ:レバーハイ2に該当する植物油含有量20%以上
「TKハイエコ-SOYシリーズ」(東洋インキ)

